

各種計画（案）のパブリックコメントについて 「皆様のご意見をお寄せください。」

町では、現在、各種計画の策定を進めています。これまで計画策定委員会などで検討を重ねた結果の概要をお知らせします。詳細については、各地区コミュニティセンター、役場担当課やホームページ等で公開します。内容をご覧ください、皆様のご意見をお寄せください。ご意見の提出、問い合わせ先などは25ページをご覧ください。

パブリックコメント募集

しらたかの木

第2期白鷹町子ども・子育て支援事業計画（案）

【担当】健康福祉課子育て支援係 ☎ 86-0212

【募集期間】1月15日（水）～1月31日（金）

【Email】kenfuku2@so.town.shirataka.yamagata.jp

町では保育所、認定こども園などの教育・保育施設の利用定員の確保策や各種子育て支援施策を定める第2期子ども・子育て支援事業計画の策定を進めています。子ども・子育て会議でご意見を伺いながら進めています。その概要についてお知らせします。

1 計画策定の趣旨、計画期間

本計画は、子ども・子育て支援法に基づき策定するものです。第1期の計画を継承し、すべての子どもが健やかに成長できるよう、教育・保育施設の利用定員の確保策や各種子育て支援施策に取り組みます。

【計画期間】

令和2年度から令和6年度までの5年間

2 子ども・子育て支援の現状と課題

- ・少子高齢化が進み、生産年齢人口が減少
- ・児童の人口割合が低下し、今後も続く見込み
- ・町の合計特殊出生率は国・県を下回り推移
- ・子どものいる世帯は減少している
- ・男性の就業率は減少傾向、女性はほぼ横ばい
- ・女性の結婚・子育て離職は減少し、就労の年齢は高齢化している

3 基本理念と施策目標

【基本理念】

確かな次代（あした）を、地域みんなで
～ 白鷹っ子の笑顔かがやくまち ～

【施策目標】

1. 子どもの「生きる力」の育成
2. 母と子の健康づくりの推進
3. 子育て家庭への支援の充実
4. 仕事と家庭の両立の推進
5. 子ども・子育てに配慮したまちづくり
6. 地域における子育て支援の充実
7. 次代の親の育成

4 子育て支援の事業概要

町内における子育て支援に関わる施設や主な事業は下記のとおりです。

- ・認可保育所（2カ所）
- ・認定こども園（2カ所）
- ・子育て世代包括支援センター（1カ所）
- ・子育て支援センター・にこぽーと（1カ所）
- ・延長保育事業（4カ所）
- ・一時預かり事業（4カ所）
- ・ファミリー・サポート・センター事業（1カ所）
- ・乳児家庭全戸訪問事業
- ・養育支援事業
- ・妊婦健診事業
- ・放課後児童クラブ（4カ所）
- ・放課後等デイサービス（1カ所）
- ・放課後子ども教室（2カ所）

5 子ども・子育て支援法に基づく取組

教育・保育提供区域を1区域（町全域）とします。保育所、認定こども園の今後の「量の見込み」と「確保方策」については、児童数が減少傾向にあることや、施設利用の低年齢化が進んでいる現状などを十分にふまえて待機児童は生じない見込みとしています。また、延長保育、一時預かり事業、放課後児童クラブなどの地域子ども・子育て支援事業についても、利用者のニーズに対応できるよう計画しました。健康福祉センター内に設置した子育て世代包括支援センターや子育て支援センター・にこぽーと、ファミリー・サポート・センター事業の周知を図り、子育て家庭の相談・支援に努めます。

6 計画の推進にあたって

本計画を広く周知し、家庭、教育・保育機関、地域、行政などの関係機関相互の連携により取り組みが行われるよう努めます。

また、計画の推進にあたっては、子ども・子育て会議での意見をいただきながら進めます。

町振興審議会が出された意見の概要

(第6次総合計画前期基本計画について)

白鷹町振興審議会（会長：國方敬司山形大学名誉教授）は、町振興計画の策定、変更その他その実施に関し、必要な調査および審議を行う組織であり、今年度は、第6次総合計画前期基本計画等について審議するため、計3回開催されました。

10月30日に開催された第2回同審議会では、第6次総合計画前期基本計画等について、佐藤町長より諮問を受け、その内容について審議がなされたところであり、出された意見等を踏まえ、12月3日開催の第3回同審議会において、同計画等の答申がなされました。

いただいた主な意見

■現在、アパートが増え、空き家が増えている状況。アパートは若者の多くが入居するが、将来的には一軒家が欲しくなる。アパート建設支援以外にも地価が安価であるなど若者が住みやすい、買いやすいことのアピールをしてどうか。

■本町は、商業施設が少ない。あればおのずと人は集まってくると思う。

■保育の仕事に携わっているので、入退所の乳幼児の数から本町の人口の流れを敏感に感じる。町の施策が保護者や保育所の動きに影響を及ぼしているため、子どもファーストで子育てに良い環境や町となるような何か起爆剤があればと思う。

■子どもは、山形市の児童遊戯施設に興味を持っている。山形市は、自家用車だと本町から時間的距離も近く、利用しやすい印象。一方、自家用車を持たない高校生などは、バスや鉄道を使って行けるものの、時間や乗換など不便だと思う。

■昔は、先祖の土地や家を守るという意識が根強かったが、今の若い世代の感覚だと、それらがわずらわしいものに変ってきているように感じる。アパート建設はもちろん必要であるが、短期的で即効性を目指した施策であると思う。この他に、先祖の土地を大切なものであるということ、じっくり時間をかけて、若い世代に少しずつ伝えていく長期的な施策との二本立てが必要だと思う。

■子どもたちが、学校給食でこれまで以上に様々な地元の野菜を食べられるよう、農業者に対する支援をお願いしたい。

■中山間地が多い本町では、小規模の個人農業者を大切にすることや、農業を職業として選んでもらえる教育を進めることで、農地を守っていくことが重要であると思う。

■荒砥高校は本町にとって大切な高校である。現在、県において高校再編が進められているが、村山地域など他の圏域からも通ってもらえる魅力が重要だと思う。そのためにも、鉄道やバスでどこへでも通えるようにすることが必要。

■教員時代、保護者から「子どもに、勉強しなさいと教えないで欲しい」と言われたことがあった。理由を聞くと、勉強して賢くなると都会に進学・就職してしまい、地元に残らなくなるとのことだった。この件は、現実の問題として難しい問題だと感じた。

■食や自然環境、伝統文化など資源豊富な白鷹町であるが、町の魅力を一層高めるためには、町民一人一人が思いを共有し纏まっていくことができる「柱」の存在が重要と考える。町民誰もが誇りに思える「柱」づくりを意識したまちづくりの推進を期待したい。



菅亜貴子委員



吉田博之委員



海老名慎一郎委員



樋口賢太郎委員



橋本久美委員



國方敬司会長



村上浩康委員



山本幸子委員



加藤仁美委員



菊地政人委員